

あきたの 地域医療通信

2017年3月 第27号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



CHANGE！ FROM AKITA～秋田から変わる、医療への想い～

医師や医学生のキャリア形成のサポートや、就労環境の整備等を推進するために開設した「あきた医師総合支援センター」。時代のニーズに合わせてCHANGEし続けるセンターの長谷川仁志センター長からお話を伺いました。

Q1. センターの役割や現状について

A. 現在、全国に地域医療支援センターが設置されていますが、あきた医師総合支援センターの大きな特徴は、若手医師のサポート等の様々な取り組みを県・大学・医師会・医療機関が一体となって行っているということです。週に1回、県の担当者とセンターのスタッフがミーティングを行っており、県内各地域や各科の医療事情、全国の状況等について情報を共有し、秋田で何を行うことが一番良いかということを決めるという観点から考え、新たな企画の検討や課題解決に取り組んでいます。

また、全国各地や海外の機関と連携することによって、国内外の医療機関と直結した展開を進めることが出来ております。それを県内の医療機関の皆さんにも提供することで、さらにより良い教育研修への展開が期待できる方向に進んできています。

やはり、大学と県内の医療機関が一体化し、初期研修医や専門研修医に良い教育研修を提供することこそ、次の医療の充実に結び付けていくものと思います。



Q2. 今後の課題について

A. センターや大学と県内医療機関等による一体化した卒前卒後の取り組みにより、県内で活躍する初期研修医数は増えてきています。今後の一番の課題は、新たな専門医研修へ初期研修医をどのようにして繋げていくかということであり、そのためには、各科の専門研修プログラムを関係機関と連携して充実させていくことが重要だと考えています。

また、県内の研修を充実させていくということと同時



あきた医師総合支援センター長
長谷川 仁志 先生

に、地域の実情に沿った制度となるように、地方から積極的に提言していくことも大切だと思っています。

Q3. 新たに力を入れている取り組みについて

A. センターでは超音波の手技の修得に力を入れています。超音波は放射線のように被曝線量を気にしなくて良いですし、簡単に診ることが出来ます。聴診器の次はエコーの時代であり、秋田にはエコーのレベルが高い先生方が大勢いますので、どの診療科に進んでも大切な基本的な心エコーや腹部エコーは、医学生から初期研修、そして専門研修とシームレスに学べるような体制にしたいと思っています。こうした超音波のセミナーや研修を開催するとともに、秋田の充実した卒前教育について広く情報発信したいと考えています。

Q4. 医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. センターは「CHANGE! FROM AKITA」を掲げ、秋田で活躍する初期研修医、専門研修医や医学生の皆さんが安心してキャリア形成することが出来るように最大限サポートする目的で開設されました。皆さんの研修を学ぶという意欲から生まれるいろんな想いに対応できるような体制を築きたいと思っていますので、何でもご意見やご希望を投げかけて下さい。皆で患者さん中心の医療が展開できる優れた医師になれるよう頑張っていきましょう。



あきた医師総合支援センターは、時代のニーズに合わせて“CHANGE”し続けることで、秋田で活躍するドクターの皆さんが、安心してキャリア形成できるように全力でサポートしています。

キャリア形成支援

大学・県内医療機関と国内外の教育研修機関を直結して、卒前教育、初期および専門研修、各分野の診療、チーム医療の充実など、キャリア形成と医療の質向上を目的としたセミナー等の開催を推進しています。

- ◎セミナー開催
- ◎国内外の教育研修機関との連携
- ◎研修・学会参加サポート
- ◎医療教育連携



ダイバーシティ&ワークライフバランス

秋田で働くすべての医師が、仕事と生活に良い影響を与え合いながら、そのどちらも充実させ、安心してキャリア形成できるようお手伝いします。また、秋田県医師会長や秋田大学医学部長らが、平成27年度に全国初となる医療界のイクボス宣言を行うなど、医療機関・各部門におけるイクボスの輪もひろがっています。

- ◎ネットワーキング・サポート
- ◎マタニティ白衣無料レンタル
- ◎セミナー開催時の無料託児設置



セミナー情報や開催内容、説明会の様子、県内で活躍している先輩医師のキャリア紹介など、当センターの活動内容や各種最新情報をホームページ、フェイスブックなどで紹介しています。「秋田で働きたい」「医師としてどんなキャリアや生活があるか知りたい」「修学資金制度について相談したい」「今後の働き方をじっくり考えたい」などのご相談やご希望に、各分野・各医療機関が連携して丁寧に対応します。どんなことでもお気軽にご相談下さい。

▶▶▶ ホームページ
<https://akitamd-support.com>

▶▶▶ フェイスブック
<https://www.facebook.com/akitamdsupport>



イベントカレンダー

開催月日		名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
4月	8日(土)	平成29年度新医師歓迎レセプション	初期研修医	ホテルメトロポリタン秋田(秋田市)	秋田県医師会 TEL:018-833-7401 FAX:018-832-1356
6月	30日(金)~7月1日(土)	第14回医師臨床研修指導医ワークショップ	医師・研修医をサポートするスタッフ	サンルーラル大瀧(南秋田郡大瀧村)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
7月	2日(日)	レジナビフェア2017 in 大阪	医学生	インテックス大阪(大阪府大阪市)	
	16日(日)	レジナビフェア2017 in 東京	医学生	東京ビッグサイト(東京都江東区)	

修学・研修資金のお知らせ

秋田県では、将来、県内の公的医療機関等において医師として地域医療に従事しようとする医学生、大学院生及び研修医に対し、修学資金・研修資金を貸与しています。

詳しい内容については、医師確保対策室までお問い合わせください。

項目/区分	医学生修学資金【市町村振興枠】	大学院生修学資金	研修医研修資金
貸与対象者	医学生 ※公立私立、学年、出身地は問わず	大学院生 ※公立私立、学年、出身地は問わず	臨床研修医又は専門研修医
貸与額	・月額15万円(自宅通学者は10万円) ・入学金相当額(1年生に限る)	・月額30万円 ・入学金相当額(1年生に限る)	月額20万円
貸与期間	大学卒業まで(最長6年間)	大学院修了まで (最長4年間)	研修修了まで (臨床研修は最長2年間、専門研修は最長3年間)
返還免除要件【勤務先】	<ul style="list-style-type: none"> 大学卒業後、1年6ヶ月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務 返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等で勤務 知事指定勤務先は、自治体病院・診療所が優先(ただし診療所の勤務にあつては1年を限度とする) 	大学院又は研修修了後、直ちに知事が指定する公的医療機関等に勤務	
返還免除要件【診療科】	限定なし	知事が別に定める診療科(産婦人科、小児科、麻酔科、精神科、外科、循環器内科、消化器内科) 【専門研修医のみ上記診療科及び総合診療科】	
返還免除要件【勤務期間】	貸与期間の1.5倍の期間	貸与期間と同じ期間	

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 機能展開医学系 整形外科学講座

当講座は、島田洋一教授を中心に26名で構成されています。診療グループは、脊椎脊髄、関節、骨軟部腫瘍、リハビリの4つの分野で先端医療を担っています。関連病院は、県内ほぼ全ての地域に約20施設あり、特に厚生連病院には秋田大学で最多の31名を派遣しています。関連施設の合計手術件数は年間約11,000例に達し、各専門分野を網羅する指導医は53名で、若手整形外科医の研修プログラムは十分な指導体制と症例数を確保しています。

研究活動は、機能的電気刺激(FES)、リハビリテーションロボット開発や最新の3次元運動解析などを、理工学系の専門家と連携しています。骨代謝研究班は、骨粗鬆症の基礎研究や高齢者の脊椎疾患の臨床研究など、全国に先駆けた知見を発信しています。一方、スポーツ活動も盛んで、バスケ、駅伝、テニスなどは各種大会で活躍し、またスポーツだけでなく裸参り部という活動もあります。

当講座は、教育を最重要視し、カンファレンスや小講義、研究会やセミナーを充実させ、最新情報に触れる機会を数多く設けています。これらの教育、研修体制のもと、秋田県の地域医療の発展に貢献したいと考えています。



問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科 整形外科学講座
講師 永澤 博幸(医局長)

E-mail: seikei@doc.med.akita-u.ac.jp

TEL: 018-884-6148

HP: <http://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/index.html>

指導医メッセージ



秋田赤十字病院
呼吸器内科

守田 亮 先生



右から2人目

みなさん、こんにちは。秋田赤十字病院呼吸器内科副部長の守田亮です。これを読まれている皆さんは、どの診療科に進もうか…、今後どこで働いていこうか考えている先生たちがほとんどではないでしょうか？

きっかけは様々ですが、縁あって秋田県で働く機会を得た皆様と今後も一緒に働いていければと思います。

研修医メッセージ

平鹿総合病院
武富 龍一 先生
(東北大学・鹿児島県出身)



私は東北大学卒業後、2016年4月から平鹿総合病院で初期臨床研修をしています。

元々は鹿児島県出身で、秋田とは縁もゆかりもありませんでしたが、大学の実習でお世話になった際に、研修医の先輩方の働く姿勢に魅せられて当院での研修を選択しました。雪や方言には多少悩まされていますが、充実した

もちろん都会が魅力的なのも良くわかります。雪が少なく、生活環境も良い。規模の大きな病院もあり、多くの教育機会に恵まれているのも確かです。もちろん僕もその点に関しては魅力的に感じます。

ただ、医師が不足している秋田県だからこそ出来ることも多くあると思います。また、秋田県の若手医師をバックアップしていく教育体制は日本全国どこにもひけをとらないものと自負しております。ずっと秋田にいたほうがいいと言っているわけではありません。先生たちの研鑽のため、その目的にあった場所で勉強してこくことも必要だと思います。多くのことを吸収して、その分野で秋田県の第一人者になり、若い世代に受け継いでいくことができれば、よりいっそう秋田県の医療も盛り上がってくると思います。一緒に秋田を盛り上げていきませんか？

MESSAGE

研修生活を送ることができており、この選択は間違っていなかったと思います。

当院の研修の特徴は実践第一です。研修医1年目から多くの患者さんを主治医として診ます。検査から点滴や処方といった治療、侵襲的な手技まで、自分の責任のもとで実践します。患者さんと向き合い、考え、勉強したうえで実践する。自分で考え経験したことは必ず身に付きます。もちろん、上級医のバックアップ体制も整っています。

“百聞は一見に如かず” 研修先を決めかねている学生の皆さんは是非一度見学にいらしてください。お待ちしております。



羽後町立羽後病院

〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字大戸道44-5 TEL:0183-62-1111 HP:<http://ugo-h.jp/>

羽後町は秋田県の内陸南部に位置し、日本三大盆踊りの一つと称される国指定重要無形民俗文化財「西馬音内盆踊り」に代表される「緑と踊りと雪の町」です。

当院は、医療の質及び患者サービスの向上を最重点とし、地域医療の中核として信頼され、より身近な病院となるよう日々努めています。診療科は10科、病床数168床（一般95床、包括ケア19床、回復期リハ54床）、救急告示病院などの指定を受け、訪問診療・訪問リハビリに加え、学校や保育園の健診事業など地域に密着した医療を担っています。

現在、県内と首都圏の6基幹型研修病院の協力病院として地域医療分野での初期臨床研修プログラムにおける研修医を受け入れ、地域医療の現状と実践を学んでいただくとともに、羽後町の良さも体感していただいております。

今後も保健、社会福祉、介護に至るまで地域医療の発展に貢献するとともに、診療に際しては、専門分野に固執することなく全人的に対応できるよう研鑽を積んでまいります。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
E-mail : ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

